

今日の説教のポイント<使徒言行録 12 章 6-25 節>

殺されるヤコブ、救い出されるペトロ、撃ち倒されるヘロデ王。様々な生と死から教えられることは？

①悩んでもどうにもならないことは、神様に委ねるしかない。

処刑前日の夜、ペトロは「二人の兵士の間で眠っていた」と記されています(6)。私たちだったら眠れるでしょうか？ きっと、あれこれ考えて眠れないのではないのでしょうか？ 主イエスはこう教えておられます。「明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」(マタイ 6:34)。悩んでなんとかなら悩んでもいいでしょうが、そうでないなら神様に全て委ねる、これが一番です。

②本当に「我に返る」には、「神様にまで返る」ことが必要。

新約聖書の中で、「我に返る」という言い方がなされている所が二か所あります。一つは、放蕩息子が、父親からもらった財産を使い果たして誰からも見放された時に、初めて父親の愛がどんなに素晴らしいものに気づいた時です(ルカ 15:17)。もう一つが今日の箇所で、ペトロが神様によって助け出されたのだと気づいた時です。「我に返って言った。『今、初めて本当のことが分かった。主が～私を救い出して下さったのだ』」(11)。日本語では、「我に返る」とは「正気づく、意識を取り戻す」(広辞苑)という意味ですが、これら聖書の二箇所では、「神様の恵みに気づく」ということを意味しているのです！ ただ意識を取り戻し、正気づくだけでは救いはありません。恵みの神様の存在を知る時に、私たちは本当の意味で正気づき、新たに生きる力が湧いて来るのです！

③。私たちの行きつく先は死。しかしその死には違いがある。

この時救い出されたペトロにも、主は次のように彼の最後を告げられました。「『年を取ると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくない所へ連れて行かれる』。ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現わすようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。」(ヨハネ 21:18-19)。自分に栄光を帰そうとする死か(ヘロデ王)、神に栄光を帰す死か(ヤコブ・ペトロ)、その違いが大事なのです！